

たのしいをつくろう！「いま」「むかし」アソビバ

小平市

プロジェクト実施者 こどもと大人の地域活動「たのつく」

実施日時

令和6年 9月22日(日) 13:00～17:00
令和6年 9月23日(月・祝) 13:00～17:00
令和6年 10月26日(土) 13:00～17:00
令和6年 10月27日(日) 13:00～17:00

実施場所

小平市上水本町地域センター・地域センター公園

プロジェクト概要

主に小学生を対象として、幼児から高齢者までの多世代も参加し、「いま」と「むかし」をつなぐことのできる、ニュースポーツなどの新しい遊び、コマ回しなどの昔遊び、子ども発案の遊びを組み合わせ、異年齢・多世代交流型の遊び場づくりを行います。遊びの企画やオリジナルルールを考えるなど、子ども自身がプレーリーダーとなることで子どもの自由な発想と工夫を促します。

イベント詳細

地域センターの屋内外をフル活用した期間限定のアソビバを開催します。ニュースポーツ（ボッチャ、モルックなど）や子どもたちに人気の新しい遊び（ボードゲーム、カードゲームなど）と、昔遊び（コマ、割りばしでっぼう、竹とんぼなど）や工作（シャボン玉、段ボール、ねんど、ビーズなど）をおりまぜて、自由に遊びまわることができます。体を動かすのが大好きな子も、手を動かしてモノをつくるのが得意な子も、頭を使って競争するゲームが好きな子も、誰でも歓迎！好きな遊びも初めての遊びも多様な遊びを経験しながら、子どもたち自身で、大人と一緒に遊びを広げていけるアソビバです。色々な種類の遊びがあるので、子どもだけでなく、大人もシニアも多世代誰でも一緒に遊べます。子どもたち自身が遊びをリードする【子どもプレーリーダー】も一緒に活動し、子どもが主体となり大人と共に「たのしい」をつくり、子どもをまんなかにしたゆるやかな地域のつながりを広げることを目指しています。

プロジェクトへの想い

たのつくの合言葉は「たのしいをつくろう」です。私たちは、子どもたち自らの力でたのしいことをつくり出す中で、一人ひとりの居場所が地域の中に生まれることを活動の目的としています。モノや情報であふれる現代社会の中で、子どもたちが大人から与えられるのではなく、自分たちで物事を生み出す経験を積み重ねることは、生涯に亘って自らを支える力になると思います。子どもと一緒に遊び、活動する中で、大人にも「たのしいをつくる時間」が生まれ、大人にとっての居場所にもなります。豊かな子どもの遊びや育ちのためには、大人にも「遊びの時間や遊び心」が必要なのかもしれません。たのつくはそんなことを大切にしています。



たのしいをつくろう！「いま」「むかし」アソビバ

子供の感想

- ・小学3年生：ねんどでいろんなものをつくれた。
- ・小学3年生：初めてやったかるたが楽しかったです。ねんどで5こも作品を作って楽しかったです。
- ・小学3年生：きょうあそんでたのしかったので、またここでもしイベントがあったらぜひに行きます。
- ・小学4年生：ダンボールのひみつきちを、きょうかして作ったことが楽しかった。
- ・小学5年生：こまがまだ手にのらなかったで、なんとしてもものせたいです。
- ・小学5年生：工作でどんぐりとかに顔をかいたりするのが楽しかった。
- ・小学5年生：こまの、せんこうはなびというわざができるようになった。

保護者の感想

- ・子どもから高齢者まで、皆さん楽しく過ごされている姿が印象的でした！
- ・優しい空気感のなか、それぞれが楽しんでいて心地よい時間でした。コマ回しを丁寧に教えていただけて母子ともにできるようになり嬉しかったです！
- ・企画、運営、準備から片付けまでたくさんの方々の力が必要だと思います。遊びの中から得られるものは大きい。今だからこそ大切なイベントですね。
- ・地域の皆さんのもと安心して子供たちは工作に取り組めていました。私もまた地域の皆さんと子供たちが接して楽しんでいる様子が見れて嬉しかったです。
- ・親戚が近くになくて、ほぼ主人と2人で子育てをしているので有難みを感じました。
- ・私が楽しかったです。ありがとうございました。

主催者の感想

本プロジェクトを通じて、「こんなことができたらいいな」と想像していた光景を現実にすることができたことが何よりの喜びでした。プロジェクトを通じ、私たちの活動に得られたものが大きく3つあります。・「遊び場」を継続的に開催するための基盤（ヒト）・「たのつく」らしい運営スタイルの言語化とスタッフでの共通認識・「居場所」としてのつながりの広がりです。まず、自団体のみならず、イベントを通じ連携し合える団体やボランティアスタッフ等協力者を得ることができ、活動基盤の充実を図ることができました。また、研修やイベント企画の具体化を通して、団体としてどのような活動を具現化していきたいのか、メンバー間での共通言語を持つことができ、チーム力が向上しました。そして、イベントで終わらず、普段の居場所としての活動においても、子ども同士、大人同士、大人と子どもなど複層的につながりが広がり、「たのつく」を居場所とする人が増え、子どもの遊びが目に見えて多様になったことは一番の成果でした。たのつくの活動日には、目の前の公園で他の子たちと会って遊んだまま、たのつくの部屋に来る前に日が暮れてしまう子もいたりして（笑）私たちとしては、それが一番だよね、と話しています。

